

## 森美術館開館記念展 会期終了

# 総入館者数 73 万 985 人を記録

森美術館（港区六本木：六本木ヒルズ 森タワー / 館長 デヴィッド・エリオット）開館記念展「ハピネス：アートにみる幸福への鍵」（会期 2003 年 10 月 18 日 - 2004 年 1 月 18 日）が終了いたしました。最終日前日深夜からはオールナイトハピネス！と題した企画で翌朝 6 時まで開館時間を延長するなどし、多数の来館者に対応、会期終了日までの**総入館者数は 73 万人を突破いたしました**。来館される方々のライフスタイルに合わせてあらゆる時間帯でアートをお楽しみいただける開館時間の設定（週末は 24 時迄）、また展覧会に留まらず様々なイベントやパブリックプログラムへも数多くの参加者が集い「新たな開かれた美術館」として活発な対話が生まれました。今後も森美術館はアートとインテリジェンスが融合した「アーテリジェント・シティ六本木ヒルズ」の顔としてアートに触れる機会をさらに創出し、文化の発信源としての機能をより一層充実させる取り組みを続けます。

## 2004 年は 3 つの展覧会でスタート

2004 年 1 月 31 日より国内外でこれから活躍する若手クリエイターを紹介するシリーズ「MAM プロジェクト」（詳細は資料参照）を 52 階森美術館に隣接する展望台、東京シティビュー内で開催。第 1 弾のアーティストである「サンティアゴ・ククル」の作品を展覧しています。

2004 年 2 月 7 日からは同日スタートで森美術館の 53 階と 52 階のギャラリーを分けて、さらに 2 つの展覧会を開催します。53 階は現代日本のクリエイター 57 組の作品が交差する「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」、52 階は世界でもっとも知られた日本のアーティストのひとり「クサマトリックス：草間彌生展」です。対比的であり、また相照らし合うともいえる両展。この独創的な試みは、双方の展覧会を同時に体験していただくことで新鮮かつ刺激に満ちたアートとの出会いを創出するものです。見えてくるのは日本のアートシーンを先導してきた草間彌生、そして時代を継いでいくアーティストたちの今の姿。来館者が体感するのはまったく異なった表現世界で、それぞれは個々に独立した展覧会であり、その企画の成り立ちや人びとへ発するメッセージも異なります。

これらの展覧会を森美術館ならではのコンセプトで形づくり、この時機に開催することは、またとない巡り合わせであり意義深い試みとなるはずです。

森美術館は日本そして世界のアートシーンの今と、これから行く先を示唆できればと考えています。

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高山、高橋、三浦  
TEL: 03-6406-6111 FAX: 03-6406-9351  
E-mail: pr@mori.art.museum  
Web: www.mori.art.museum

106-6150 東京都港区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー 森美術館

PRESS RELEASE  
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# 六本木クロッシング： 日本美術の新しい展望 2004

会期：2004年2月7日（土）～4月11日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53階

## ◎こんな展覧会が見たかった！ ——現代日本のクリエイター 57組

これから知りたい人も、もっと知りたい人も、  
みんな一緒にクロッシング

国際化、グローバル化時代にあって、日本のアートに向けられた国内外の関心は、これまでにない高まりを見せています。「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」は、東京の中心、六本木ヒルズの中核にオープンした森美術館が、その活動基盤となる日本のアートシーンと社会をグローバルに繋いでいくために、2～3年間隔で開催していく新しい展覧会シリーズです。

「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」では、現代アートを中心に、デザイン、ファッション、メディア・アート、建築など、さまざまな創造的<sup>クリエイティブ</sup>分野で活躍するアーティストを、世代や地域の枠組みを越えて幅広く紹介していきます。アーティストの選考には、森美術館のキュレーターとゲスト・キュレーターが共同でありました。現代日本の様相を多様な角度から反映し、切り取り、関係づけることで、多様な芸術ジャンルがポジティブに交<sup>クロス</sup>差するよう考慮されています。また、鑑賞者のみなさんにとっても、「現代アートをもっと知りたいけれど、どこから入れば良いのかわからない」、「アートが好きでいろいろ見ているけれど、まだ見たことのないアーティストに出会いたい」、「アートも好きだけど、ファッションやデザインにも興味がある」など、多様なアプローチが可能な、まさにクロッシングの場となるでしょう。

## ◎キュレーター・ステイトメント

Resonating Individuality 【個の共鳴】

シリーズの記念すべき第1回となる「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」では、6名のキュレーターが選んだ57組のアーティストが一堂に会します。時代を象徴する圧倒的な潮流が見えないいま、キュレーターが重視したのは、まず、“自分たち”のアクチュアリティ。現実以上でも以下でもなく、身体や精神が正直に感じる“自分たち”とは何か。グローバルなアートシーンで“自分たち”をどう位置づけるのか。それらを強く感じさせてくれる作品、そこから未来への希望を確信させる作品を、積極的に考慮しました。さらには、各アーティストのコンセプトや技法、アイデアなど、多方向に広がる「個」の表現を、丁寧に分析・評価しながら、それらが共鳴する日本のアートシーンに何を見るか。「個」としての自分は、他者、共同体、そして、日本、世界という、われわれの属する異なるレベルの社会へと意味合いが広がります。すなわち「RESONATING INDIVIDUALITY（個の共鳴）」。

開催年ごとにその時代の姿が「個」が響き合うことによって見えてくるはず。このチャレンジが展覧会としてどのように形づくられるのか。どうぞご期待ください。

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## ◎観に来たあなたは、 オーディエンス賞の選考者です！

「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」は、みなさんとさまざまなレベルでのインタラクティブな関係が生み出されるよう、オープンな交差点（クロッシング）になるための企画をご用意しています。

○作品⇔観客：多様なジャンルの作品が交差する「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」ならではの作品、触ったり、聞いたり、身につけたりという五感を刺激する作品や、観客が参加することで成立する作品も多く含まれています。

○展覧会⇔観客：みなさんは、完成した展覧会を、単に受容するだけではありません。「オーディエンス賞」、「MAM コンテンポラリー（森美術館メンバーシップ）賞」などのプライズ（賞）の選考者として、展覧会に対するみなさん自身の声をお聞かせください。

○美術館⇔観客：広く一般に開かれた美術館をめざす森美術館では、「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」に関するパネル・ディスカッション、アーティスト・トーク、キュレータートークから、ライブ・パフォーマンス、ワークショップなどの関連イベント、エデュケータートーク、バギーツアー、サインツアーまで、会期中ほぼ毎日開催される多彩なパブリックプログラムを準備して、みなさんをお待ちしています。

### ◎ 2004年3月28日に各賞発表「懸賞制度」

受賞作品をその後1週間（会期終了）までご覧いただけます。

- オーディエンス賞…… 一般来場者の投票によるプライズ
- MAM コンテンポラリー賞…… 美術館のメンバーシップ会員によるプライズ
- インターナショナル・アドバイザリー・コミッティー賞…… 森美術館のインターナショナル・アドヴァイザリー・コミッティーによるプライズ

### ◎ 参加アーティスト（姓のアルファベット順）

会田 誠 Aida Makoto  
 秋山さやか Akiyama Sayaka  
 青木陵子+伊藤 存 Aoki Ryoko+Ito Zon  
 アトリエ・ワン Atelier Bow-Wow  
 坂 茂 Ban Shigeru  
 エクソニモ exonemo  
 深澤直人 Fukasawa Naoto

福井 篤 Fukui Atsushi  
 フジタマ Fuzitama  
 八谷和彦 Hachiya Kazuhiko  
 花代 Hanayo  
 畠山直哉 Hatakeyama Naoya  
 法貴信也 Hoki Nobuya  
 池田 謙 Ikeda Ken  
 今村 源 Imamura Hajime  
 石川鶴太 Ishikawa Raita  
 伊東篤宏 Ito Atsuhiko  
 生西康典 +掛川康典 Ikunishi Yasunori + Kakegawa Yasunori  
 加藤 豪 Kato Go  
 加藤美佳 Kato Mika  
 木村友紀 Kimura Yuki  
 木下 晋 Kinoshita Susumu  
 小杉武久 Kosugi Takehisa  
 クワクボリョウタ Kuwakubo Ryota  
 ポル・マロ Pol Malo  
 みかんぐみ MIKAN  
 ミナ ベルホネン minä perhonen  
 ミッション・インヴィジブル Mission Invisible  
 村瀬恭子 Murase Kyoko  
 村山留里子 Murayama Ruriko  
 中川正博 (20471120) Nakagawa Masahiro (20471120)  
 中村哲也 Nakamura Tetsuya  
 中西夏之 Nakanishi Natsuyuki  
 生意気 Namaiki  
 ニブロール Nibroll  
 西尾康之 Nishio Yasuyuki  
 小谷元彦 Odani Motohiko  
 大木裕之 Oki Hiroyuki  
 オノテラユキ Onodera Yuki  
 鶯蛙 OUA  
 ルバート・キャリー+高橋知子 Rupert Carey+Takahashi Tomoko  
 眞田岳彦 Sanada Takehiko  
 笹口 数 Sasaguchi Kazz  
 渋谷清道 Shibuya Kiyomichi  
 志水児王 Shimizu Jio  
 篠田太郎 Shinoda Taro  
 高嶺 格 Takamine Tadasu  
 竹村ノブカズ Takemura Nobukazu  
 タナカカツキ Tanaka Katsuki  
 田中功起 Tanaka Koki  
 東京ピクニッククラブ Tokyo Picnic Club  
 上村亮太 Uemura Lyota  
 渡部睦子 Watanabe Chikako  
 渡辺 郷 Watanabe Go  
 やなぎみわ Yanagi Miwa  
 ヤノベケンジ Yanobe Kenji  
 安村 崇 Yasumura Takashi

### ◎ 「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」 キュレーター（五十音順）

東谷隆司（森美術館アシシエイト・キュレーター）  
 飯田高誉（インディペンデント・キュレーター）  
 片岡真実（森美術館シニア・キュレーター）  
 紫牟田伸子（日本デザインセンター情報デザイン研究所所長）  
 畠中 実（NTT インターコミュニケーション・センター学芸員）  
 原 久子（アートプログラム・ディレクター）

開館時間：月・水・木 10:00-22:00 | 金～日・祝前日 10:00-24:00 | 火  
 10:00-17:00（いずれも入館は閉館の30分前まで）会期中無休 ※2/13は22時閉館  
 入館料：一般1500円、学生（高校・大学生）1000円、子供（4歳以上～中学生）500円  
 各種割引有り \* 展望台入館料含、また本展のチケットで「クサマトリックス」展も  
 ご覧いただけます。

主催：森美術館  
 後援：毎日新聞社、TBS、J-WAVE 協賛：株式会社アニスパーサンライズ  
 協力：富士ゼロックス株式会社 Art by Xerox、日本サムスン株式会社

## PRESS RELEASE プレスリリース

# クサマトリックス：草間彌生展

2004年2月7日(土) - 5月9日(日) 会場：52階 ギャラリー7～9、  
その他、一部ギャラリー外使用

## 「水玉の女王」六本木に降臨！新作のクサマ・ワールドを体感！

草間彌生は、世界でもっとも知られた日本を代表する作家です。ヴェネチア・ビエンナーレへの日本代表としての参加(1993年)、またニューヨーク近代美術館ほかアメリカ各地を巡回した大回顧展など多くの展覧会により、世界中で「クサマ・ワールド」は旋風を巻き起こしてきました。かつては、60年代のニューヨークを舞台に、アート界に変革の萌芽を撒き、度重なるハプニングで社会の変革をも提唱した草間彌生。少女時代から今日まで、彼女が制作し続ける自らの幻視体験に根ざした数々の作品は、彼女自身が生きる空間の延長であり、同時にそれは我々の視覚体験、生活空間に対する、慈しみに満ちた変革の誘いでもあります。本展では、彼女が60年代から制作している、みるものの視覚全体を覆う環境的なインスタレーションを中心に、新作を空間いっぱいに展示。それらはすべて草間彌生が森美術館のために新たにつくりあげた作品の数々です。草間のトレードマークとも言うべき水玉や鏡を使った部屋など、草間が長く手掛けているモチーフはもちろん、近年手掛けている少女たちのドローイングを発展させた立体作品では、草間の新境地をご覧いただけます。新しい美術館にふさわしい新たな試みを展開すべく、アーティスト自身も意欲的に取り組んでいます。

クサマトリックス、それは草間の最新の活動を紹介する「美術展」であり、全身で草間世界を体感する「アミューズメント」であり、同時に、それを通過した者たちの視覚／生活観に緩やかな変革をうながす「装置」なのです。

### 草間彌生 略歴

長野県松本市生まれ。少女時代から視界が水玉模様で覆われる幻覚や、動植物の話し声を聞くといった幻覚体験に触発された絵画を制作、48年より京都市立美術工芸学校で日本画を学んだ後、油彩、グアッシュ、コラージュなど様々なメディアによる制作を開始。1957年渡米、モノクローム地に同色の網が無限に反復する絵画で注目を集め、その後、性や食物を扱ったソフト・スカルプチャーや壁面に同一のイメージを反復させるインスタレーションでポップアート、環境的インスタレーションの先駆けとなった。またファッションショーや複数の男女の裸体に水玉を描くハプニングなど、反戦運動、ヒッピームーヴメントと連動しながら社会にメッセージを発信。73年帰国後も旺盛な制作活動を続け、78年からは小説、詩でも独自の世界を展開。89年ニューヨーク国際芸術センターでの回顧展、93年ヴェネチア・ビエンナーレに日本代表として参加以来、その評価は国際的なものとなり、98年にはロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムを皮切りに大回顧展が、ニューヨーク近代美術館、ウォーカーアートセンター、東京都現代美術館を巡回。2000年からはフランス、ディジョンのル・コンソルシウム美術館でたちあがった個展が2003年までにヨーロッパ各地、韓国を巡回する一方、国内では2002年に霧島アートの森(鹿児島県)、2003年に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(9月-11月 北海道立釧路芸術館へ巡回)で個展。また「横浜トリエンナーレ2001」、松本市美術館開館記念展(2002)、「越後妻有アートトリエンナーレ2003」に参加の他、2002年には若手デザイナー集団「GRAF」と家具のコラボレーションを行うなど、常に時代の先端を走りながら、新たな表現の探求はとどまることを知らない。

開館時間：月・水・木 10:00-22:00 | 金～日・祝前日 10:00-24:00 |  
火 10:00-17:00 (いずれも入館は閉館の30分前まで) ※2/13は22時閉館  
入館料：一般1500円、学生(高校・大学生)1000円、子供(4歳以上～中学生)500円  
各種割引有り  
\*展望台入館料含、また本展のチケットで「六本木クロッシング」展も  
ご覧いただけます。

主催：森美術館  
後援：朝日新聞社、テレビ朝日、J-WAVE 協力：EPSON  
企画協力：草間彌生スタジオ、児島やよい、内田真由美

PRESS RELEASE  
プレスリリース

## クサマトリックス展の発表によせて

草間彌生

今、活動している肉体をもって、生と死のはざままで、いろいろと想念をめぐらせてきた。その芸術の発露と軌跡を思いかえしてみる。

私は私の衝動や天と地のあまたの生命力を感動をもって、長くも短い年月を芸術へのめりこんで、斗ってきた。これからも私は力の限り全力を振りしぼって、心の中からメッセージを、宇宙や地球の上に、且つ生きている万物に届けたい。

ふりかえり見る自らの幼い日々の、自分が何であるかという事に、戸惑い続けてきた。そして、私は1本のクレヨンと紙に私の顔を描いた。そして、さまざまの幻覚も見て、それらを、スケッチブックに描きため3000枚以上の作品を夢中で描いて描いた。

その様にして、私は一年、一年と人生の道を歩み続けて手さぐりで大人になり今を迎えた。『モノクローム』のオブセッションな芸術。『死と生』など。『常同反復作用』や『無限の網』、『離人カーテンの囚人』『生と食の強迫』『愛はとこしえ』『恐るべき家具』『生命』『宇宙の無限』『分裂』『ドライビング・イメージ』『サイコ・ソマティック・アート』『レペティティブ・ビジョン』『集積』『細胞』『分裂の幻覚と神秘』『消虚』『増殖と驚きの秘密』などなど、いろいろの角度から思考した造形を前衛の分野から『マニフェスト』し芸術作成してきた。それを何十年も。

今回の個展では青春を前にした少女たちの周りを取りまく驚きと願望の面影を謳歌した姿を造ってみた。

この作品群は、私の成長期に遂げられなかった、幸福への願望を描いてみた。暗い戦争と、社会不安と、まともでない社会制度のはざまの中で、苦しんだ

私の不幸だった青春を振り返ってみて、迫り来る青春のはばたき。愛の幻影のちらつくまわりは、死の面影さえもはらみながら、それを乗り越えて、消虚し光明にめくるめく空間に溢きかっている。

私は1960年代より、『愛はとこしえ』という巨大な電飾彫刻をいくつも造ってきた。今も続いている。世界各地の美術館で展示してきた。

今度はその延長線上にある思春期を前にした、清純な少女像5人と犬たち3匹でなりたっているインスタレーション。私がかつて成し遂げられなかった幸福を、この年になっていよいよ願望し、この心の中に一層目覚めさせたのだ。このインスタレーションを見つめる私の心の底に、涙がとめどなく流れている。

なぜなら、この少女たちは私に「ハーイ、コンニチワ」と語りかけたからだ。私の忘れられた幻の青春に投げかけた愛の問いかけである。

「ラブ・フォーエバー（愛はとこしえ）」と何度、私は心に叫んできたであろう。『時』は迫り来ることは人々のならないである。その終結に平和を望んで、一層「愛はとこしえ」と叫ばずにはいられない。

私の今度の個展はいくつものテーマを巡って造った。

観に来てくださった人々の心の中に愛の灯や、光の明暗の美しさや、無限にのびる『天国へのぼる階段はやさしく』のぼって行ってほしい。きっとあなたに幸福をもたらすものであろうと私は希っている。

芸術家の道をいまだ未完の過程にある私の唯一の喜びは、人まねでなく、謙虚に自己の創造にかけてきた一人の誇りを強く持ち続けて、この年月を貫いてきた事である。

これからも、気なげに一生を貫いていきたい。皆さんが私の行く道をいつも見守っていてほしい。

私は、造形芸術家として60年有余の歳月をささげてきた。様々の角度と深さから。今、これからの私の心の姿勢とおきどころは、一人の思想家として、芸術をもこえて、万物に対峙していきたい、ということである。残り少ない世に生きて、死んだ後もなお永遠にのこる思想を芸術の力をもってなしとげたい願望で、夜も眠れず心を燃やし続けている。もっと高く、深く、大きく、未踏の分野に羽を広げたい。

そのためには、どんな困難をも乗り越えたいと決心している。

## 六本木クロッシング | ROPPONGI CROSSING



1



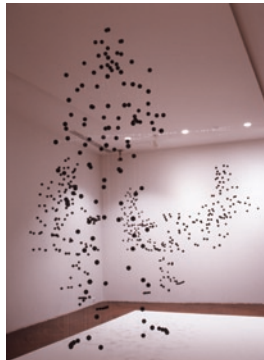
2



3



4



5



6

## クサマトリックス | KUSAMATRIX



1



2



3

## キャプション | CAPTIONS

### 六本木クロッシング展

1. 坂 茂  
《ペットボトル・ストラクチャー 01》  
ペットボトル、アクリル  
30㎡  
2002  
展示風景／上海美術館、上海  
プロジェクトチーム：坂 茂、寺井珠生  
Structural Engineer: 手塚 升

2. 加藤美佳  
《ソング》  
油彩、カンヴァス、板  
196.0 x 196.0 cm  
2000  
小山登美夫ギャラリー  
© 2003 Mika Kato.

3. 木村友紀  
《new garden》  
C-プリント  
100.0 x 150.0 cm (Ed. 5)  
2003  
Courtesy: Taka Ishii Gallery

4. 中川正道 (20471120)  
《松五郎プロジェクト》  
アクリルグアッシュ、水性マーカー、紙

29.7 x 21.0 cm  
2003  
© Nakagawa Masamichi  
(20471120)  
5. 笹口 敦  
《four figures (at the dining  
table)》  
2002  
展示風景／原美術館、東京

6. タナカカツキ  
《SUNDAY》  
DVD  
10 min.  
2003

草間彌生展  
1. 草間彌生  
《水玉強迫》  
1998  
展示風景／Les Abattoirs,  
Toulouse, France  
Photo: 草間彌生スタジオ  
2. 草間彌生  
《氷上の堂》  
2000  
展示風景／Maison de la culture  
du Japon, Paris, France  
Photo: 草間彌生スタジオ

3. 草間彌生  
《野にあそびにいこう。》  
アクリル、サインペン、ボード  
36.5 x 25.8 cm  
2003

### ROPPONGI CROSSING

1. BAN SHIGERU  
PLASTIC BOTTLE  
STRUCTURE-01  
PLASTIC BOTTLES, ACRYLIC  
30 SQUARE METERS  
2002  
INSTALLATION VIEW: SHANGHAI  
ART MUSEUM, SHANGHAI  
PROJECT TEAM: BAN SHIGERU,  
TERAI TAMAKI  
STRUCTURAL ENGINEER:  
TEZUKA MINORU

2. KATO MIKA  
SDDA  
OIL ON CANVAS ON BOARD  
196.0 x 196.0 cm  
2000  
TOMIO Koyama Gallery  
©2003 MIKA KATO.

3. KIMURA YUKI

NEW GARDEN  
C-PRINT, MOUNTED ON  
ALUMINUM  
100.0 x 150.0 cm (Ed. 5)  
2003  
COURTESY: TAKA ISHII  
GALLERY

4. NAKAGAWA MASAMICHI  
(20471120)  
MATSUOORO PROJECT  
ACRYLIC GOUACHE,  
WATER-BASED MARKER,  
PAPER  
29.7 x 21.0 cm  
2003  
© NAKAGAWA MASAMICHI  
(20471120)

5. SASABUCHI KAZU  
FOUR FIGURES (AT THE  
DINING TABLE)  
2002  
INSTALLATION VIEW: HARA  
MUSEUM, TOKYO

6. TANAKA KATSUKI  
SUNDAY  
DVD  
10 MIN.

2003  
KUSAMATRIX

1. KUSAMA YAYOI  
DOTS OBSESSION  
1998  
INSTALLATION VIEW:  
LES ABATTOIRS, TOULOUSE,  
FRANCE  
PHOTO: YAYOI KUSAMA  
STUDIO

2. KUSAMA YAYOI  
INFINITY MIRRORED ROOM  
(FIREFLIES ON THE WATER)  
2000  
INSTALLATION VIEW:  
MAISON DE LA CULTURE DU  
JAPON, PARIS, FRANCE  
PHOTO: YAYOI KUSAMA  
STUDIO

3. KUSAMA YAYOI  
LET'S GO TO THE FIELD AND  
PLAY  
ACRYLIC, FELT PEN, BOARD  
36.5 x 25.8 cm  
2003

## PRESS RELEASE プレスリリース

最新のプレス画像は森美術館ウェブサイトより申請いただけます。随時ご確認ください。  
Please apply to use images at the Mori Art Museum website. WWW.MORI.ART.MUSEUM TEL: 03-6406-6111

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## MAM プロジェクト 001: サンティアゴ・ククル

2004年1月31日[土] - 3月28日(日)  
会場: 52階 東京シティビュー内

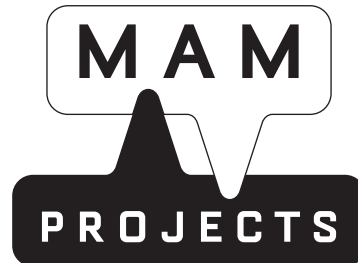
日本だけでなく世界各国で芽生えている豊かな才能に注目する、MAM プロジェクトの第1弾はミルウォーキーを拠点に活動するアーティスト、サンティアゴ・ククル [アルゼンチン生まれ・在米国] です。ククルは壁面にカットティング・シートを貼るドローイングやパーティー用の裾飾りを使ったインスタレーションなど、多様なメディアで表現を行っています。

工業製品に、アート素材として新たな息を吹きこむのがククルの作品。それらは私たちが忘れかけている歴史上の出来事などが題材となり、とらわれがちな概念に疑問を投げかけてきます。

ククルのアートが展開されているのは、52F 東京シティビュー内。森美術館というアートのためのギャラリーを飛び出し、さらにキャンバスという画面の制限から解放されたイメージは、みる人の想像の中で自由に広がるはず。一見ストリートの落書きのようにも見えるククルの作品、しかし、そこには確かな美しさが存在しています。

森美術館が、これから活躍する若手アーティストを応援します。

## MAM プロジェクト



MAM プロジェクトは、森美術館が国際的なアートシーンで活躍する若手アーティストを、新作の制作とカタログ出版の双方で応援するプロジェクトです。展示場所を東京シティビューをはじめとする六本木ヒルズ内のさまざまなパブリックスペースまで拡大し観客のオープンなアクセスを促します。年間4~5回の開催をめぐり、現代アートの他にもデザインや建築などの幅広い分野から注目の若手クリエイターを個展形式で紹介します。MAM プロジェクト 001-003 は森美術館シニア・キュレーター片岡真実が担当します。

**MAM プロジェクト 001**: サンティアゴ・ククル  
2004年1月31日[土]~3月28日[日]

**MAM プロジェクト 002**: ジェン・グエン=ハツシバ  
2004年4月3日[土]~6月6日[日]

**MAM プロジェクト 003**: R.O.R [レボリューションズ・オン・リクエスト] 2004年6月19日(土)~8月31日(日)

PRESS RELEASE

プレスリリース

# 今後の展覧会ハイライト (2004年～)

## 1. MOMA ニューヨーク近代美術館展

### モダンってなに？：アートの継続性と変化、1880年から現在まで

会期：2004年4月28日～2004年8月1日 会場：森美術館 53階

ニューヨーク近代美術館（THE MUSEUM OF MODERN ART, MOMA）コレクションから250点以上の絵画、写真、映画、デザイン、および建築作品を紹介する展覧会です。本展では、過去と現在の新たな物語を作るべく「近代」と「現代」の関係を探ります。ニューヨーク近代美術館キュレーター、デボラ・ウェインとウエンディ・ウェイトマン、および森美術館館長デヴィッド・エリオットとキュレーターの金善姫が共同で企画します。

## 2. イリヤ & エミリア・カバコフ：私たちの場所はどこ？

会期：2004年5月29日～2004年8月8日（予定） 会場：森美術館 52階

ケリーニ・スタンバリア財団と森美術館の共催で、2003年ヴェニス・ビエンナーレ開幕と同時期に開催されたイリヤ & エミリア・カバコフの新作展を、2004年に東京への巡回展として開催します。イリヤ & エミリア・カバコフの新作展は、異なる3つの時代の異なるスケールの展覧会がひとつの空間に存在する、不思議な驚きとユーモアに満ちたものです。「あらゆる相対性」、とカバコフ夫妻が呼ぶこの空間では、観客も作品の一部となり空想の世界に遊ぶことになります。

## 3. 小沢剛個展（仮題）

会期：2004年8月21日～2004年11月23日（予定） 会場：森美術館 52階

「牛乳箱」から世界を見つめる男、「相談芸術」の提案者として、1990年代以降、日本の現代アーティストとして国際展の常連となった小沢剛。牛乳箱、カプセルホテルから鍋料理まで、小さな空間やパーソナルな世界を他者と共有することで、世界をひとつに繋げてしまう小沢の魅力を一挙大公開。小沢巨匠の世界初個展です！

## 4. COLORS ファッションと色彩：VIKTOR Ⓞ ROLF Ⓞ KCI

会期：2004年8月末～2004年11月末 会場：森美術館 53階

西洋のファッションを体系的にとらえる研究機関として知られる京都服飾文化研究財団（KCI）企画の巡回展。4/29～6/20まで京都国立近代美術館で開催されたのち東京にやってきます。2005年にロレアル社より香水を発売予定の若手注目デザイナー、ヴィクトール & ロルフをゲスト・キュレーターに迎え彼らのショーの映像を核に、18世紀から現代までの服やアクセサリーなど約70点を展示します。

## 5. ストーリーテラズ：アートが紡ぐ物語（仮題）

会期：2004年11月～2005年2月 会場：森美術館 52階

現代アートにおける物語性に着目し、「語る」作品を集めて紹介する展覧会です。アーティストを「ストーリーテラー」としてとらえ、絵画、ビデオ、写真、インスタレーションなど様々な作品形態の中で、どのように物語が構築されていくのか、その独自の表現方法を探ります。

## 6. アーキラボ：終わりのない都市（仮題）

会期：2004年12月中旬～2005年3月 会場：森美術館 53階

建築は、現代の情報および都市環境と密接に結びついた先鋭的な実験の場となっています。コンピュータ、そして新素材は、これまで実現しえなかった形態を次々と生み出し、新たな建築物が都市空間に次々とあらわれはじめています。この展覧会では、1950年代以降、建築において各時代で探求されてきたユートピアのヴィジョンおよび実験を、現代の最先端の表現を中心に紹介することで、建築、都市、そしてアートの未来を探るものです。

## 7. ホット & スパイシー：アジアのクリエイターの今を描く

会期：2005年7月～2005年10月 会場：森美術館 53階

アジアのアート & カルチャーをリアルタイムに紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギッシュな芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅して紹介します。本展覧会には日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品が展覧されます。

## 8. AFRICA REMIX：現代アフリカ美術とその未来（仮題）

会期：2006年6月～2006年9月 会場：森美術館 53階

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅して構成、展覧します。著名なアーティストから若手アーティストまで、アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、パリ国立近代美術館、ハイワード・ギャラリーを巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

## 9. 路上の詩：フランス近代写真の軌跡

会期：2006年11月～2007年1月 会場：森美術館 53階

写真史の上でも魅惑的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER